「派手じゃないほうの源平合戦」年表

西暦	月	日	出来事（緑色の欄は範頼の行動）
1183	2		志田義広と源行家が義仲に身を寄せ、頼朝と義仲の関係が悪化
(寿永2)	3		義仲が息子の義高を鎌倉に人質に送る(頼朝の娘、大姫の婿という名目)ことで和議が成立
	4	17	平維盛の北陸出兵開始、火打城、三条野の戦いに勝利、安宅関を落とす
	5	9	般若野の戦い　今井兼平が平維盛の先遣隊を夜襲で撃破
		11	倶利伽羅峠の戦い　木曽義仲、10万の平家軍を撃破
	6	10	義仲、越前国入り
		13	義仲、近江国入り
		末	義仲、延暦寺に恫喝めいた書状を送る
	7	25	平氏 都の防衛を断念、安徳天皇と神器を持って西国へ。後白河法皇は延暦寺へ
			平氏は太宰府に逃れるが在地の武士に追われ船で放浪。阿波国の田口成良に迎えられ屋島に本拠を置く
		28	義仲入京、平家追討を命じられる
	8	10	義仲が従五位下左馬頭・越後守、行家が従五位下備後守に任ぜられる
		14	高倉上皇の皇子のどちらを安徳天皇の後継にするという議論で義仲は北陸宮を推して嫌われる
		16	義仲が伊予守、行家が備前守に変更
			混成軍で統制が取れない義仲、軍が狼藉を働き嫌われる
	9	8	後白河法皇、三種の神器なしで後鳥羽天皇を即位させる。朝廷と平氏は完全に決裂
		19	後白河法皇に平家を逃がした事を責められ、義仲は平家追討のため播磨国へ
			頼朝から、平家領は元の持ち主に戻す、降伏者は斬罪しないとの申状が届き、朝廷は頼朝に好印象を抱く
	10	1	水島の戦い　義仲軍が平氏軍に惨敗、矢田義清、海野幸広戦死
		9	頼朝を赦免して復位
		14	荘園・公領の年貢回復を条件に東海・東山道の支配権を認める（寿永の宣旨）
		15	頼朝の弟が大軍を率いて上洛するとの報を聞いて義仲驚いて少数の軍勢で帰京
		19	義仲、法皇を奉じて関東に出陣する案を出すが源行家、土岐光長の猛反対で潰れる
		20	義仲、後白河法皇に激烈な抗議「君を怨み奉る事二ヶ条」

「派手じゃないほうの源平合戦」年表

西暦	月	日	出来事（緑色の欄は範頼の行動）
		26	興福寺の衆徒に頼朝追討の命が下されるが衆徒が従わず
	閏10	5	頼朝、鎌倉を出立するが平頼盛から京都の飢饉を聞いて中止、義経と中原親能を代官として京に送る
	11	4	義経軍が布和の関に達するが500-600騎で入洛はかなわず、伊勢国に移って兵力の増強を図る。義仲、対決の覚悟を決める
			法皇「平氏追討に行け、頼朝と戦うなら個人でやれ、京にいれば謀反とみなす」
		19	義仲、法住寺殿を襲撃し後白河法皇の身柄を確保、土岐光長戦死
			頼朝、法住寺合戦を受けて義仲追討軍を組織。範頼を総大将に
	12	1	義仲、全権を掌握。12/10に頼朝追討の令旨を得て官軍の体裁を整える
		下旬	範頼、鎌倉を出発（頼朝はわざと1ヶ月ほど様子を見た？）
1184	1	6	範頼軍、墨俣を越え美濃国入り、御家人と先陣を競って暴力沙汰になり頼朝から怒られる
(寿永3)		13	法皇を連れて北陸へ行く予定→飢饉で動員できず義経軍は千騎ほどという誤情報(偽情報)で迎撃へ。
		15	義仲、夜になって義経軍の実勢を把握
		16	範頼、瀬田に兵を進めて北陸への逃げ道をふさぐ
		20	宇治川の戦い　範頼(3万騎)は瀬田(vs今井兼平500余騎)、義経(2.5万騎)は宇治を攻撃
			平氏が勢力回復、福原に戻る。三種の神器を和平で取り戻すか奪還するか→奪還へ
		26	後白河法皇、頼朝に平家追討と三種の神器奪還の宣旨を出す
	2	4	範頼(5.6万騎)、義経(1万騎)が京を出発(1/29という説明もあり)
		6	後白河法皇の休戦命令
		7	一ノ谷の戦い
		9	京に凱旋、おそらく範頼はすぐに鎌倉に戻る
(元暦1)			屋島と彦島(長門国)を拠点に瀬戸内の制海権を握る平家は諸国からの貢納を押さえ力を蓄積
4/16改元			源氏も水軍を保有しないため四国攻めに踏み切れず休戦状態に
			後白河法皇、三種の神器の返還と和平を提案する使者を送るが平宗盛は拒絶
			源氏勢は一旦東国に帰る。義経は頼朝の代官として京に残り、畿内の軍事と治安維持を担当
			紀伊国に逃げていた源行家、院の召しに応じて京に戻る

「派手じゃないほうの源平合戦」年表

西暦	月	日	出来事（緑色の欄は範頼の行動）
	6		範頼を三河守に任官（特別待遇）、頼朝は関東知行国を獲得
			屋島の平氏が山陽道の源氏勢力(梶原景時、土肥実平ら)を襲撃するようになる
	7	7	(三日平氏の乱)伊賀の平家継が反乱、伊勢の平信兼も呼応。院中が動揺する
		19	近江国大原荘の戦いで家継戦死。信兼は行方不明に
		28	後鳥羽天皇の即位式を開催
	8	3	事態を重く見た頼朝が信兼の捜索を義経に命じる
		6	義経、後白河法皇より左衛門少尉、検非違使に任命される（義経は治安維持に不可欠）
			義経が平氏追討から外されたのは勝手な検非違使任官への怒り？→京都の治安維持を法皇が期待した
		7	範頼、平氏追討のため1000騎で鎌倉を出発　紺村濃の鎧直垂に小具足、栗毛の馬に乗る
		27	範頼入京。追討使に任じられる。軍は京に駐留させないよう頼朝から指示
	9	1	範頼、3万騎で京から山陽道を九州に向かう
			義経、従五位下に昇格し10月には昇殿を許される。後白河法皇との結びつきを強める
	10		範頼、安芸国に達する
	12	7	備中・藤戸の戦い　佐々木盛綱の活躍で辛くも平行盛軍を撃破
			長く伸びた戦線を平氏軍に脅かされ兵站に困り、関門海峡を知盛に抑えられて九州にも渡れず。
1185	1	12	長門まで進出したが兵糧不足で周防まで後退。和田義盛ですら密かに帰りたがるなど全軍崩壊の危機に
(元暦2)			範頼、豊後の豪族臼杵・緒方氏の力を得、周防国の豪族宇佐那木遠隆から兵糧米が献上、ようやく豊後国に渡る
	2	1	範頼、筑前・芦屋浦の戦いで平氏側の原田種直を破る。彦島を衝こうとするが兵船不足で実施できず。
			範頼の苦境を知り、義経が後白河法皇に出陣を奏上し認められる。
			義経、摂津渡辺党と熊野別当湛増と河野通信を味方に付けて摂津国渡邊津に兵を集める
			法皇は大将自ら行くことはないとした（義経は治安維持に不可欠）
		13	武田信光の手紙が頼朝に届く「長門に入ったが飢饉がひどくて兵糧を集められないので安芸へ戻る。九州へ攻めようにも船が無いので進軍が出来ない」頼朝は「兵糧が無いので長門から撤退するとは何事か、九州へ攻める事は、今はやるべきじゃない。まずは四国へ海を渡って、四国の平家と戦闘をするように」と返事を書く

「派手じゃないほうの源平合戦」年表

西暦	月	日	出来事（緑色の欄は範頼の行動）
		14	範頼が周防国にいた時に、頼朝は「土肥実平や梶原景時と話し合って九州勢を味方に呼んでみて、もし降参して味方に付くようなら、九州へ行くのが良い。そうでなければ九州の連中と戦闘をする必要はない。直ぐに四国へ渡って平家を攻撃しなさい」と言った。 範頼は「九州へ行こうとしたが船が無いので進軍できず、長門国で食料が無いので周防国へ引き返す。関東武士達が云う事を聞かなくなってきた」という伝令が、今日伊豆国へ着いた。 頼朝は「今度の合戦を勝ち終えずに京都へ戻ってしまったのでは、何の自慢になるのか。食料は送るので、我慢をしてその到着を待て。平家も故郷を出て、放浪の旅の途中だと云うのに、まだまだ戦おうとしてるじゃないか。それに比べ朝廷からの追討使に任命されているのに、なんで勇敢に戦おうという意思を貫かないんだ。」という手紙を範頼と御家人達へ出した。
		18	暴風雨の中、5隻150騎で義経出発。翌日に阿波勝浦に到着
		19	屋島の平氏は伊予国の河野通信討伐に向かっていて手薄。干潮時は馬で屋島に渡れると知って寡兵で奇襲
			平氏は屋島を放棄して海上に逃走。これで平氏の拠点は彦島だけになった。
		21	義経、80騎の兵で追撃し志度道場に籠った平氏と戦う
		25	梶原景時が140隻で屋島へ到着、「六日の菖蒲」と嘲笑される
	3	9	範頼の書状が鎌倉に届く「豊後国へ着いてみたら、民が皆逃げてしまって兵糧米を徴収の仕様がなく、和田義盛兄弟や大多和義久、工藤祐経たちが関東へ帰ろうとするので、強引に押し留めて一緒に海を渡ってきました。一層の命令を出して戴いたほうが良いです。 また別当湛増が義経の誘いに乗って朝廷から追討使の任命を受け、近頃讃岐国へ進軍して、今度は九州へもやってくると噂が入りました。四国への進駐は義経が命じられ、九州への進駐は範頼が命じられた処ですよね。それなのに更にそのような奴を指名すれば、まるで私の面子が立たないじゃないですか。九州には勇士がいないといわんばかりですよ。人からそう思われたら大恥ではないですか」
		12	兵糧を積んだ船が伊豆を出発し、ようやく兵糧問題が解決
		14	頼朝から範頼に、三種の神器を無事取り戻すよう書状が送られる
		21	義経、壇之浦に出陣しようとするが大雨で中止
		23	義経、壇之浦に向けて出発。三浦義澄が大島の津で合流。840余艘で壇之浦奥津へ
			平氏は軍船500余艘で田之浦に集結

「派手じゃないほうの源平合戦」年表

西暦	月	日	出来事（緑色の欄は範頼の行動）
		24	壇ノ浦の戦い
	4	15	頼朝は内挙を得ずに朝廷から任官を受けた関東の武士らに対し、任官を罵り、京での勤仕を命じ、東国への帰還を禁じた
		21	梶原景時から、義経は功を独り占めにしているとの書状が頼朝に届く
		24	義経　京に凱旋　すぐに鎌倉に出発か？(京－鎌倉間12日間とした場合)
	5	7	義経　平宗盛親子を連れて鎌倉に向けて出発する
		15	頼朝、範頼に飛脚を送り、神剣を探すよう命じ、冬頃までは九州にいるように言う
		15	義経が酒匂まで着いたので明日鎌倉に入りたいと使者を送るが、留め置かれる。
		16	平宗盛親子だけが鎌倉に入れられる
		24	義経、大江広元に腰越状を出す
	6	9	帰京を命じられた義経、「関東に於いて怨みを成す輩は、義経に属くべき」と口走る
			この頃、義経は平家の伝統的地位だった院典厩司に命じられ、平時忠の娘を娶る
	7	9	文治の大地震
		12	中原久経、近藤国平を鎮西に派遣して範頼が九州を離れる手はずを整える。九州の平家の土地を接収して荘園領も奪っていたら朝廷から止められる
(文治)	8	14	7月の地震を受けて改元
		16	義経、小除目で伊予守を兼任
		24	下河辺行平、鎌倉に帰還。多くの御家人が帰国する中で範頼を長く補佐したことを評価
	9		頼朝は監視も兼ねて義経の元に梶原景季を遣わし、源行家追討を命じる。義経は憔悴した様子で、病気と行家が源氏であることを理由にそれを断る
		21	範頼の使者が鎌倉到着「8月中に京に行けと厳命されていたが海が荒れて遅れている。いま途中にいる。今月中には入洛したい」
		26	範頼、九州から戻り入洛
	10	11	義経、後白河院を訪れて反頼朝を訴える、10/13に再訪問→10/13に造反が世間に伝わる
		17	土佐坊昌俊らによる六条堀川の義経邸襲撃事件
		18	義経、後白河法皇から頼朝追討の院宣を得る

「派手じゃないほうの源平合戦」年表

西暦	月	日	出来事（緑色の欄は範頼の行動）
		20	範頼、鎌倉に戻る(出発は10/8頃か？)　義経の造反については情報を持っておらず、頼朝に直ではなく朋輩を通じて伝える
		24	頼朝、父の追悼法要を行い家臣を集める、範頼も参加
	11	1	頼朝、義経を討つために10/29に鎌倉を出発し黄瀬川まで兵を進める
		3	九州の緒方氏を頼り、義経が京を落ちる。
		4 - 5	大物浦に向かう途中の摂津河尻で多田行綱らを撃退　養父・藤原範季の実子で範頼と親しかった範資は、範頼から兵を借りて義経追討に参加
		6	摂津大物浦から九州に行こうとするが難破して戻る
		7	義経、検非違使伊予守従五位下兼行左衛門少尉を解任
		8	頼朝、都に使者を送り黄瀬川を発って鎌倉に戻る
		24	北条時政が頼朝の怒りを法皇に告げて交渉開始。義経と行家を捕えよとの院宣と、義経ら追捕のため守護・地頭の設置許可を得る